

# 特別企画 ゲージツカントクの部屋

びわ湖ホール芸術監督・沼尻竜典が  
近江の春 びわ湖クラシック音楽祭2018に出演する  
音楽家たちにインタビューを行いました

## 沼尻竜典 × 大植英次 (おおうえ えいじ) 指揮

沼尻: 音楽祭へのご出演ありがとうございます。

大植: びわ湖ホールは大きなホールにもかかわらず、客席と舞台との一体感があって大好きなので、出演のご依頼をいただき本当に嬉しく思っています。ステージの床がもっと明るい色だったら完璧なんですけど (笑)

沼尻: すみません。大ホールはオペラ劇場なもので…。

今年は大植さんの師であるバーンスタイン生誕100年ということもあり、『ウエスト・サイド・ストーリー』より「シンフォニック・ダンス」をお願いしました。

大植: この曲はもう何度演奏したか分からない。日本では1990年にロンドン響と演奏したけど、その直後にバーンスタインが亡くなってしまったんですね。死ぬ前に「これはエイジが持っていてくれ」と、彼が使っていたスコアとパート譜をいただいで、それは大切に銀行の金庫に預けてあります。作品についての思いはいろいろあるので、それは当日の演奏前にマイクを持ってお客様に少しお話ししようと考えています。そこにバーンスタインがいるような演奏をしたいですね。

沼尻: 音楽監督を9年間務められた大阪フィルとご出演いただけるのは大変楽しみです。

大植: メンバーも若くなって技術は向上したけれど、「朝比奈先生の音を絶対に失くさないで」といつも言うんです。どこにも真似が出来ない大阪フィルのサウンドは貴重です。朝比奈時代のブルクナーは世界のどこに出しても通用するものでした。

沼尻: 大植さんのあとの音楽監督は井上道義さん、尾高忠明さん…

大植: 尾高さんは僕が桐朋学園の高校に入学した頃にオーケストラの授業を振っていらしたんだけど、僕はまだホルンを始めて間もなかったのによく怒られて。「始めたばかりだから関係ない！」って言われて怖かった (笑)

沼尻: 大阪フィルのメンバーが中心となって演奏する音楽の祭典、「大阪クラシック」を創設されたのも大植さんですね。

大植: パッファロー響の準指揮者時代、市内のろう学校でオーケストラのメンバーと室内楽を演奏したりしてたんですが、生徒達の反応が僕にとっては鮮烈で「演奏者と聴き手の垣根が低いこういう演奏会が大事なんだ」と強く思いました。その時の体験が「大阪クラシック」に繋がっているんです。大阪だけでなく、自分が関係した町には今でも僕が創設したお祭りをやっている所がいくつもあるんですよ。例えばミネソタ、ハノーファー、それから出身の広島などにも。

沼尻: まさに「お祭り男」ですね。

大植: 「近江の春」のチラシも拝見したけど、僕も聴きたいものがたくさんある素晴らしい内容。一緒に盛り上げて行きましょう!



### 【Profile】大植英次

大阪フィル桂冠指揮者、ハノーファー北ドイツ放送フィル名誉指揮者。小澤征爾の招きでタンゲルウッドへ行き、この音楽祭でバーンスタインと出会い、助手を務めた。ほかにミネソタ管音楽監督、バルセロナ響音楽監督なども務め、2005年、日本人指揮者として初めてバイロイト音楽祭で指揮をした。

「そこに  
バーンスタインが  
いるような  
演奏をしたい」

### 5月4日(金・祝) 4-L-2

14:15~15:15 [大ホール] -----

【出演】

大植英次(指揮) /  
大阪フィルハーモニー交響楽団 /  
アンティ・シーララ(ピアノ)

【プログラム】

グリーグ:ピアノ協奏曲 イ短調 op.16  
バーンスタイン:『ウエスト・サイド・ストーリー』  
より「シンフォニック・ダンス」  
〈バーンスタイン生誕100年〉

### 5月5日(土・祝) 5-L-2

14:30~15:20 [大ホール] -----

【出演】

大植英次(指揮) /  
大阪フィルハーモニー交響楽団

【プログラム】

ショスタコーヴィチ:交響曲第5番 二短調  
op.47「革命」

両公演ともS席2,000円/A席1,500円  
18歳以下S・Aともに500円引き



大阪フィルハーモニー交響楽団



アンティ・シーララ